

1 「将来を展望した学校のあり方に関する提言書」が提出されました

令和元年12月25日、検討委員会から教育長あてに提言書が提出されました。

将来的には市内小学校1校、中学校1校へ…これを念頭にした4つの提言

市内の出生数減少の推移を見ながら慎重に検討した結果、将来的には、市内小学校1校、中学校1校にしていくことが妥当である。（※1 参照）

また、築50年を迎える尾花沢小の改築は大きな課題で、将来的な統合と合わせて考えていただきたい。小中の連携や公共施設の効果的な活用等から、中学校の隣接も考えていく事が効果的である。

しかし、学校建設は、市の将来像を描く際の中心施設となることから、市の都市計画マスタープラン見直しの時期（令和元・2年）に合わせ、街づくりの観点からも考えていただきたい。

※1 市全体の子どもの数と学級数の変化(学級数は市内小学校1校、中学校1校と仮定した数値)

出生年度	平成17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	令和元
人数	124	125	133	97	108	113	94	104	107	92	100	106	76	60	?
学級	4	4	5	3	4	4	3	4	4	3	4	4	3	2	?
現学年	中2	中1	小6	小5	小4	小3	小2	小1							

令和元年11月現在

提言 1) 市内小学校の統合について

出生数から見る令和7年度頃から令和12年度頃にかけての学級数等の激減や、建設時の学校規模と将来的な空き教室の数、用地取得や設計業務、建設のための期間等を考慮すると

令和8年度に尾花沢小を18学級規模で建設し、市内1校に統合することが望ましい。

※令和12年度頃には、6学級が空き教室となり、校舎内だけで放課後児童クラブとして活用できる。

提言 2) 市内中学校の統合について

専門教科担当教員の配置や部活動等における中学校の現状を考えると、将来的には、市内1校に統合することが望ましい。令和5年度には、尾花沢中校舎を使用し、市内1校に統合できる生徒数となるが、地域の意向を受けながら、統合の時期を検討していきたい。

令和5年度に318人11学級規模となり、現尾花沢中学校校舎で受け入れ可能となる。

提言 3) 統合小学校の建設場所について

将来の統合小学校に望む、学校教育の機能面や有効性の面から、次の点を考慮していただきたい。

徒歩及びスクールバス利用において、安全・安心に通学できる場所を考えていただきたい。特に、徒歩通学の安全を考えた時、より住宅が多く児童数の多い地域の近くが望ましい。

また、学習環境として図書館や体育施設が近くにあることは、教育活動が効果的に進めやすいだけでなく、放課後等の活動にも有益である。

さらに、小・中隣接する面積を考慮すると共に、将来的な街づくりの観点も含め検討する必要がある。

提言 4) 学校建設に関連する事柄について

○学校給食について

自校給食の良さを指摘する声が多い。そこで、小学校内に調理場を設置し、自校給食を行っていただきたい。将来、中学校が併設された時は、小学校から給食を配送する事を見通した設備としていただきたい。

○学校プールについて

プール建設は、2.5Mプール規模で、幼児から低学年が使える補助プールを併設したプールとされたい。夏季休業中は、市民プールとしての機能をもたせ、幼児や中学生等にも解放していただきたい。

○放課後児童クラブについて

小学校建設を進める場合、その建設時期により空き教室が出てくる事が予想される。空き教室を、順次放課後児童クラブ教室として活用していく事を前提とした学校建設を考えていただきたい。

○学校構想の要望等

学校統合等を考える時、新たな学校における特色ある教育を進めていただきたい。

- 特に ① 英語力の向上に力を入れた教育の展開
- ② 地域と共に歩む学校の創設（ふるさと愛の育成、地元企業と連携した教育 等）

2 提言を受けた「教育委員会」、「総合教育会議」の意見

市内小学校・中学校統合について

<小学校>

- 尾花沢小学校の改築は令和8年度完成を目標とし、統合については、それぞれの学校の状況に合わせ、子どもたちの教育環境の充実のため、地域や保護者の意見を十分聞きながら進めていただきたい。
- 尾花沢市の望む教育の姿を、総合振興計画や都市計画マスタープラン等に十分に反映していただきたい。

<中学校>

- 令和5年度に尾花沢中校舎を使用した統合が可能だが、地域の意向に沿って進めていただきたい。

学校建設に関わることについて

- 併設校として連携するのか、義務教育学校としていくのかは学校のあり方として大きな課題であり、学校としての形態をどうするかは、今後の教育委員会等で話し合っていく必要がある。
- 統合することでますます遠距離になり、バスに長時間乗ることになるが、子どもたちの負担にならないよう十分に検討されたい。また、スクールバス利用に伴い歩く機会が少なくなり、子どもたちの体力が落ちてきていることも課題である。
- 英語力の向上に力を入れた教育の展開にとどまらず、海外とのつながりがある市を目指すなど、尾花沢ならではの教育として発信できるよう検討されたい。
- 尾花沢らしさ、尾花沢ならではの教育というものを示し、郷土愛をさらに育てていただきたい。

3 今後の流れについて

<令和2年度の中で>

- ・提言を受けた内容に関して、各地区ごとに説明や意見をj受ける機会を設定していく。
- ・教職員を対象として、今求める学校像のアンケートを行い、将来の学校建設に活かしていく。
- ・教育委員会で、視察や学習会を企画しながら1年をかけて学習し検討する。
- ・要所を捉えて、総合教育会議を開催し、検討を加えていく。

そして、「第7次尾花沢市総合振興計画」、「尾花沢市都市計画マスタープラン」の中に、これまでの提言や教育委員会の意見等を盛り込み、将来の小中学校のあり方を明確にしていきたい。